

# 光ディスクの取扱い上の注意

## 目 次

<b>1. ケースからのディスクの取り出し方、ケースへの入れ方</b>		
1-1 ケースの開け方 (10mmの場合)	-----	2
1-2 ディスクの取り出し方 (10mmの場合)	-----	2
1-3 ケースの開け方 (5mmの場合)	-----	2
1-4 ディスクの取り出し方 (5mmの場合)	-----	3
1-5 ディスクをケースにしまう	-----	3
<b>2. ディスクの持ち方、扱い方</b>		
2-1 ディスクの正しい持ち方	-----	3
2-2 ディスクの正しい扱い方	-----	4
<b>3. 汚れ、ホコリが付かないように、汚れの取り方</b>		
3-1 汚れ、ホコリが付かないように	-----	4
3-2 汚れ、ホコリの取り方	-----	5
<b>4. タイトルの書き方</b>		
4-1 光ディスク製品	-----	5
4-2 インクジェットプリンター対応ディスク	-----	6
<b>5. 保護シート、ラベルの取り扱い</b>		
5-1 ディスク単体の製品 (記録型CD、記録型DVD、記録型BD)	-----	6
5-2 カートリッジ入り製品	-----	7
<b>6. 保管方法</b>		
6-1 ケースに入れて保管しましょう	-----	7
6-2 保管場所・環境	-----	7
<b>7. 廃棄方法、データ消去方法</b>		
7-1 ディスクを捨てる場合	-----	8
7-2 記録されたデータを消去して廃棄したい場合	-----	8
<b>8. バックアップ</b>		
	-----	8

# 1. ケースからのディスクの取り出し方、ケースへの入れ方

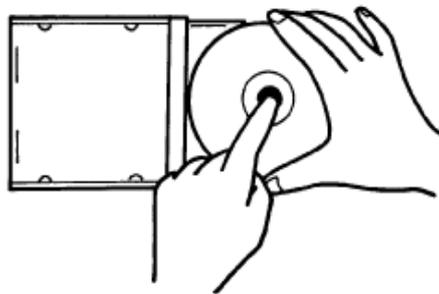
## 1-1 ケースの開け方(10mmの場合)

プラスチックケース(以下ケース)の蝶つがい部分が露出している方を上にして持ち、もう片方の手で上ケースの蝶つがい部分とは反対側の両端を押さえるように持って引き上げると簡単にケースを開けられます。



## 1-2 ディスクの取り出し方(10mmの場合)

ケース中心の丸い部分を押しながら、もう片方の手でディスクの両端を持って引き上げるように取り出します。



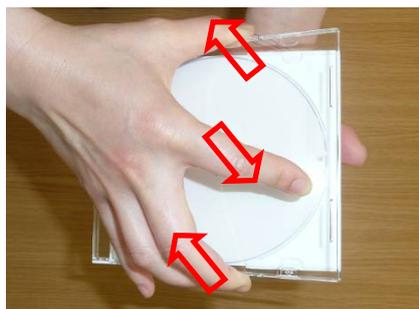
### ※ それはなぜ?

ケース中央部でディスクセンター穴を軽くロックしており、無理な力でディスクを取り出すとディスクが変形してしまう可能性があります。ケース中央部を押さえることによりロックが解除され軽い力で取り出しができます。

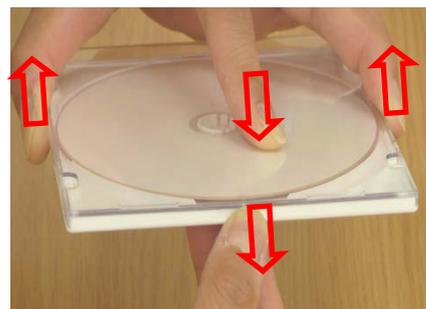
## 1-3 ケースの開け方(5mmの場合)

プラスチックケース(以下ケース)のリッド(フタ)を上にし、リッド(フタ)中央部の両端を上へ引っ張ると同時に中心部分を下側へ押しとケースを開けられます。

同時にもう片方の手でボトム(下側部分)側面を下方向に下げるとさらに簡単にケースを開けられます。



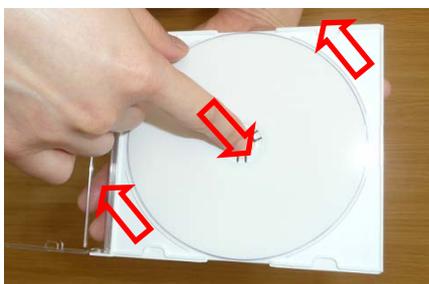
ケース上側



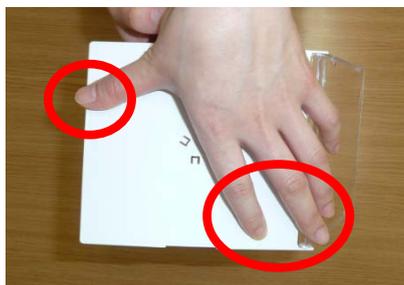
ケース横側

## 1-4 ディスクの取り出し方 (5mmの場合)

両手でケースを持ち、ケース中心のクランプ(丸い部分)を押しながら、もう片方の手でボトム(ケース下側部分)の両端を下側から押すと、ディスクはクランプから外れます。



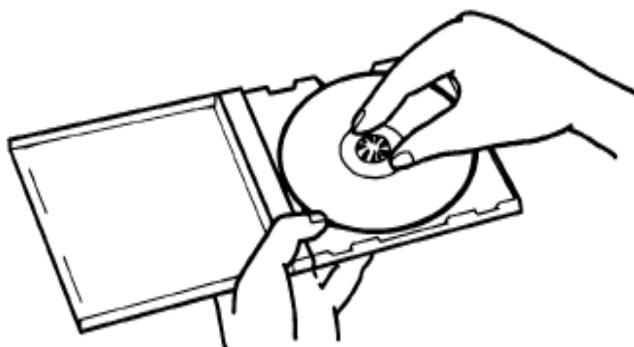
ケース上側



ケース下側

## 1-5 ディスクをケースにしまう

ディスクをケースに納める時はディスクレーベル面を上にして、内周部分(中心部分)を上から押さえて入れて下さい。



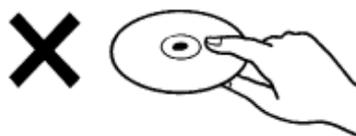
## 2. ディスクの持ち方、扱い方

### 2-1 ディスクの正しい持ち方

ディスクは、図Aのように持つことをお奨めします。



図A 正しいディスクの持ち方



図B 誤ったディスクの持ち方

### ※ それはなぜ?

図Bのように持った場合、ディスクの表面に指紋が付着し、記録や再生ができなくなることがあります。センターホールには、指をかける程度にして下さい。指をセンターホールに入れ過ぎると、抜けなくなる恐れがあります。

指紋が付きましたら、3-2の汚れ、ホコリの取り方を参考にして拭き取って下さい。

## 2-2 ディスクの正しい扱い方

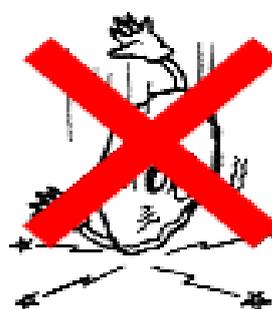
- (1) ディスクの記録面には、傷、指紋、汚れ、ホコリ、水、油、塩分などが付かないように取り扱って下さい。

### ※ それはなぜ?

ディスクはレーザー光を記録面に当てて、情報を記録または再生しています。そのため、汚れなどでレーザー光を妨げるような状況が発生した場合に、正常に記録や再生ができなくなります。またホコリや水、油、塩分などが付着したままディスクを機器に入れますと、機器が故障することがあります。

汚れ、ホコリが付きましたら、3-2の汚れ、ホコリの取り方を参考にして拭き取って下さい。

- (2) ディスクは曲げたり、落とさないように取り扱って下さい。



### ※ それはなぜ?

ディスクを曲げたり、落としたりすると、ディスクに変形、割れ、剥がれが発生して正常に記録または再生ができなくなります。変形したり、割れたり、剥がれたディスクを機器に入れると、機器を壊すことがありますので使用しないで下さい。

- (3) ディスクを長期間機器内に放置しないで下さい。

### ※ それはなぜ?

熱などの影響でディスクの変形などが発生する場合があります。

- (4) ディスクを結露させないで下さい。結露の恐れがある場合は、室温に十分になじませてからお使い下さい。

### ※ それはなぜ?

結露した場合、正常に記録、再生ができない恐れがあります。

## 3. 汚れ、ホコリが付かないように、汚れの取り方

### 3-1 汚れ、ホコリが付かないように

ディスクの記録面に、傷、指紋、汚れ、ホコリ、水、油、塩分などが付かないように取り扱って下さい。またカートリッジ入りのディスクでは、シャッターを開けないようにして下さい。

### 3-2 汚れ、ホコリの取り方

記録面に汚れ、ホコリが付着した場合は、メガネ拭きのような柔らかい布でキズが付かないように軽く拭きとって下さい。

拭くときには内から外へ(ディスクの中心から外周に向かって)直線的に拭いて下さい。



内から外



円周方向

#### ※ それはなぜ?

ディスクの信号は、円周方向に記録されています。円周方向に拭いてキズをつけてしまった場合、連続的に信号にダメージを与えてしまい読み取れなくなる可能性があります。一方、内から外へ向かって拭いた場合、万一傷ついても信号を横断する形で付くために影響は一瞬で済み、与える影響が小さくなります。

## 4. タイトルの書き方

### 4-1 光ディスク製品

レーベル面の記入領域に先の柔らかい油性フェルトペンなどで記入して下さい。



#### ※ それはなぜ?

鉛筆、ボールペンなど先の硬い筆記具は、反射層や記録層に傷を付ける恐れがあります。反射層や記録層に傷を付けると記録内容が読み取れなくなる原因となります。

## 4-2 インクジェットプリンター対応ディスク

### (1) インクジェットプリンターで印刷の場合

ディスク印刷に対応した機器を使用し正しく印刷して下さい。インクが乾燥するまで触らないようにして下さい。乾燥後も印刷面を濡らさないようにして下さい。



#### ※ それはなぜ?

誤った印刷方法やディスク印刷に対応していない機器を使用しますと、ディスクに傷を付ける恐れがあります。インクが乾燥するまでに触ったり濡らしたりすると、図柄がにじんだり転写することがあります。

### (2) 筆記具で記入の場合

レーベル面の記入領域に、先の柔らかい油性または水性フェルトペンなどで記入して下さい。

#### ※ それはなぜ?

鉛筆、ボールペンなど先の硬い筆記具は、反射層や記録層に傷を付ける恐れがあります。反射層や記録層に傷を付けると記録内容が読み取れなくなる原因となります。

## 5. 保護シート、ラベルの取り扱い

### 5-1 ディスク単体の製品(記録型CD、記録型DVD、記録型BD)

ディスクに保護シート、ラベルなどを貼らないで下さい。



#### ※ それはなぜ?

ディスクにラベルなどを貼りますと、回転中のディスクの重心がずれ、高速で回転した時にバランスがくずれて振動が発生し、正常に記録、再生できないことがあります。また保護シートやラベルの糊の影響でディスクに反りが生じ、記録や再生に悪影響を及ぼすことがあります。さらに装置内で引っ掛かったり、回転中に剥がれて装置やディスクを壊す恐れがあります。

## 5-2 カートリッジ入り製品

ラベルはカートリッジの貼り付けエリアに貼り、それ以外の場所には貼らないで下さい。

### ※ それはなぜ?

貼り付けエリア以外の場所に貼りますと、カートリッジが機器内で正常に装着されず、機器やディスクを壊す恐れがあります。

## 6. 保管方法

### 6-1 ケースに入れて保管しましょう

ディスクを保管するときはディスク専用のケースに入れて保管して下さい。



### ※ それはなぜ?

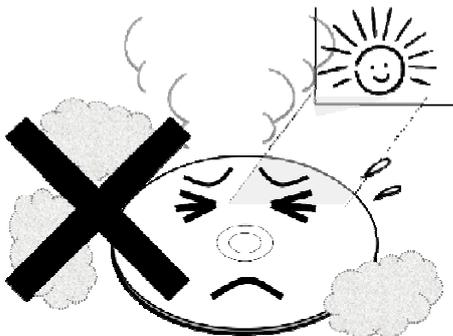
ケースに保管することで、記録面やレーベル面を傷、ホコリから守ることができます。またディスクが変形することも防止できます。

### 6-2 保管場所・環境

保管場所は直射日光を避け、できるだけホコリの少ない環境で保管して下さい。

保管環境は温度15℃～25℃、湿度40%～60%が適しています。

カートリッジ入りディスクは上に物を乗せないで下さい。カートリッジが変形する恐れがあります。



### ※ それはなぜ?

直射日光に長時間当たりますと、記録層が劣化し正常に再生できなくなる恐れがあります。高温環境で保管するとディスクが変形し、また低温環境で保管しますと使用時に結露してしまう恐れがあります。

## 7. 廃棄方法、データ消去方法

### 7-1 ディスクを捨てる場合

自治体により、ディスクの廃棄物分類の指定が異なります。廃棄する各自治体の廃棄物分類方法に従ってください。

#### ※ それはなぜ?

自治体によって、ディスクなどのプラスチック製品を燃えるゴミとして処理するところ、燃えないゴミとして処理するところ、資源ゴミとして回収するところがあり対応が異なります。廃棄する各自治体の廃棄物分類に従う必要がありますので、分類方法が不明な場合は各自治体にお問い合わせ下さい。

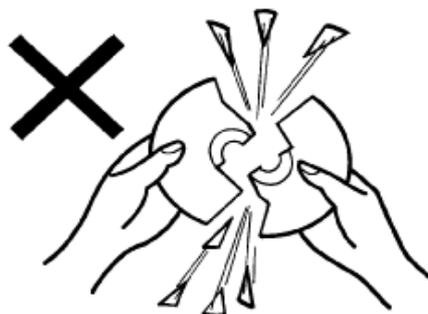
### 7-2 記録されたデータを消去して廃棄したい場合

機密上、記録されたデータを再生不能にされたい場合には、市販の光ディスク用廃棄処理器具の使用をお奨めします。

ディスクを割らないで下さい。

#### ※ それはなぜ?

ディスクを割ると小さな破片となって飛び散るため大変危険です。



## 8. バックアップ

パソコンやレコーダーに搭載しているハードディスク(HDD)は、大容量で高速に読み書きができますので普段のデータ保存に活用されています。

しかしハードディスクが故障した場合、一般的にパソコンやレコーダーのメーカーは、ハードウェア(パソコンやレコーダーの本体)の補償は行っていますが、保存されたデータにつきましては補償していないことがあります。

とくに個人で作成した文書、住所録、メールデータ、デジカメやカムコーダで撮影した画像、映像については、一度失われると2度と復元できない可能性があります。

しかしバックアップされたデータがあれば被害が最小限になり、万が一の時にも復元できます。

記録型CDや記録型DVD、記録型BDの光ディスクメディアは、ハードディスクとは異なる記録メディアでありバックアップメディアとして最適です。

光ディスクにバックアップを録っていただき大切なデータをお守り下さい。